



FUNABASHI LIONS CLUB NEWS

ライオンズクラブ国際協会 333-C 地区 船橋ライオンズクラブ会報 vol.3

船橋ライオンズクラブ会長 L 三橋恒夫 スローガン 「奉仕の原点に還って、信なくばたたず」

2012年新春特別号 第51期三役と元ガバナーの新年の抱負

発行者：船橋ライオンズクラブ会長 L 三橋恒夫
編集者：IT・PR 委員長 L 斎藤真治

決して節操を変えず信念を貫きとおす ———— L 三橋恒夫

新年明けましておめでとう御座います。メンバー各位のおかげで上期も無事に過ごす事が出来ました。新年より下期に入りました事、心より御礼申し上げます。

「歳寒の松柏」一・・・どんな苦しい事態に陥っても、決して節操を変えず信念を貫きとおす。(論語) 松や柏の葉が冬になっても緑の色を変えないことから。【どんなに深い絶望からも人は立ちあがらざるを得ない。】すでに半世紀も前に、海も空も大地も農業と核に汚染され、それでも草木は根つき私たちは生きてきた。しかし、著者(五木寛之氏)はここで問うています。再生の目標はどこにあるのか。再び世界の経済大国をめざす道はない。敗戦から見事に登頂を果たした今こそ、実り多き「下山」を思い描くべきではないか、と。「下山」とは諦めの行動でなく新たな山頂に登る前のプロセスだ、という鮮烈な世界観が展望なき現在に光を当てている。成長神話の呪縛を捨て人間と国の新たな姿を示した画期的思想です。2011 年度も下山に入りました。下山というとマイナス志向にとらえますが決してそうではなく登山に例えれば登りは頂上目指して一目散に登りましたが、下山の時は岩陰に咲く美しい高山植物や山の稜線、下界を眺める余裕も生まれてくるでしょう。山を下りれば日常が待っているそこでしばし体を休め、またの新しい山行(事業)を計画する。下山の時代言いかえれば「成熟期」だと思います。取り留めのない話をしましたがご理解頂ければ幸いです。

最後になりましたがメンバー各位ご家族の健康と事業を成功に導く新たな目標を抱く事を願って年頭の抱負と致します。

「The Lion Spares The Suppliant」
第 51 期会長 L 三橋恒夫



身近なことから立ち向かわなければなりません ———— L 池野秀基

今年は「初春を祝う」言葉を申し上げてよいのか分かりません。

昨年 3.11 は、その災害や原発などの直接的な被害だけでなく、根本的な国の仕組みまで揺るがす国難であり、これからもさらに大きな影響を受け続ける恐怖を感じています。

こんな時代だからこそ互いに身近なことから立ち向かわなくてはなりません。

私も、個人的には少しずつ変わり始めたことを感じています。正直に話すと、私はライオンズクラブの基本である奉仕活動を心のどこかで、少々照れくさいことと感じていましたが、今回のことで、その認識が変わりました。今はささやかなことしか出来ないが、無理をすることなく、気負うことなく、しっかりとボランティアに向かう心だけは出来ました。

第 51 期幹事 L 池野秀基



多くの弱者に手を差し伸べられる様に ———— L 大貫秀一

第 51 期の会計に任命された L 大貫秀一です。年齢は 52 歳になりますが、入会してまだ 3 年目の若輩者です。船橋ライオンズクラブは、昨年チャーターナイト 50 周年記念を無事に終え当時会長だった 28 歳の L 木全純が、50 年後のチャーターナイト 100 周年も会長にと、会場に詰めかけていたお客様達に言われたものでした。また東日本大地震も忘れように忘れられない未曾有の大災害でした。果たして今年はどうなるのでしょうか。獅子の子供は千尋の谷を自分の力で這い上がらねばいけないと言われています。われわれライオンズは一人一人の力は微力であっても、クラブ員が力を合わせる事でどの様に深い谷であっても這い上がる事が出来るでしょう。また、周りの弱者をも一緒に連れて登り切る事でしょう。我々の周りには普通の生活を送りたくてもおくれぬ弱者がまだまだたくさんいます。ですから三橋会長の「奉仕の原点に還って、信なくばたたず」をスローガンに、池野幹事とともにライオンズの誇りを持ってより多くの弱者に手を差し伸べられる様に努めたいと思います。

第 51 期会計 L 大貫秀一



数え九十歳の男の新年の気持ち ———— L 斎藤貞雄

昨年はいろいろ欠席がちで申し訳ありませんでした。大穴中学校での弁論大会で壇上の上り下りの際によるめいて、助けて頂いてから、それまで歩行にはいささか自信があっただけに、あれからは何だか日常の歩行に自信がなくなりました。

戦前の帝国海軍では日常から階段の昇降に際しては駆け足でやらねば教官に殴られたもので、その癖が先だってまだ残っていて、階段はタツタツと自分では昇降したつもりでした。これは日本だけでなく世界の海軍軍人に羨だったようで、ライオンズクラブの国際大会などで三十年ぐらい前までは大会参加者の中で階段の昇降の仕方、貴 L は昔出身はネービーじゃないですかと聞かれてお互い肩を叩き合っ

て交歓したこともありました。それがなんと年移り星変わって最近はその話は昔のこととなり、豪華客船の中で階段を駆け下り駆け上がりしたら、マナーエチケット違反となるでしょう。

かの有名な聖路加病院の日野原氏は健康のために、毎日階段を何階かまで昇降なさるとのことですが、本当でしょうか。御年百歳たいしたものです。しかし、先日のお見せしたあの不恰好な様では私などとても無理だと新年早々あきらめです。諦めといえは新年の大学箱根駅伝も体力の全力を果たしつくす姿に毎年感動を受けています。

片やもう駄目かと諦めの気持ちと、いやいやまだまだもう一丁やれるところまでやってやろうかという気持ちとが複雑に錯綜する数え九十歳の男の新年の気持ちです。

L 斎藤貞雄 '76~'77 年度 333-C 地区ガバナー



天災と人災 ———— L 木下務

昔から災害は忘れた頃にやってくると云う。災害には天災(地震、雷、火事、親父)と云われたが、現代は地震、雷、津波に原発ではないか。昨年 3 月 11 日の東日本大震災には心よりお悔やみ申し上げ、1 日も早い復旧、復興を願って居ります。1923 年(大正 12 年)関東に大震災が襲いました。10 万人以上の死者が出たそうです。今から 90 年位昔の事で経験した人々は現在 100 歳以上の人達で記憶もだいぶ薄らいでいると思います。

人災、それは戦争だ。日中、日露戦争に大勝した日本は 1941 年(昭和 16 年 12 月 8 日)米英両国に宣戦布告(大東亜戦争に突入)初戦はハワイの真珠湾攻撃、南方方面への攻撃、それはバンザイ、バンザイの連続だった。それからは一進一退後徐々に後退 B29 爆撃機に依る空爆の毎日。忘れもしない 1945 年(昭和 20 年 3 月 10 日) B29 による東京大空襲 10,000m 以上の高さからの無差別爆撃(焼夷弾) 亀戸方面から両国方面へ浅草橋方面から両国方面へ逃げる人、人、人でごった返している。煙に巻かれて倒れる人、熱くて隅田川に飛び込む人、死者 20 万人以上と云われている。当時私は 16 歳中学生(旧制中学)焼跡整理で毎日動員、仰向けの幼児を附せて母親が真っ黒焦げ、涙が出て止まらない。人災はどんな事があっても 2 度と繰り返してはならない。災害は忘れた頃にやってくる。

L 木下務 '00~'01 年度 333-C 地区ガバナー



ボトムアップで確かな一歩を ———— L 小西宗仁

爽やかな暁風を卸しつつ肅々とめぐりくる新春の装いは清浄で典雅である。厳しい年明けではあるが全てが祝福と感謝と歓喜であることが嬉しい。ライオンズクラブに入会されたメンバーの多くは地域社会においても仕事の面からも既にリーダーの立場にある。しかし指導力の訓練が未熟であることが時として露出される。今や私達の日常は世界観を以て理解や運用する能力を身につけることが不可欠です。わが国は戦後 67 年を経過した中で平等感覚が尊重され定着する中で、突出するリーダーが大変出にくい傾向にある。リーダーとはトップダウンと思い込んでるかもしれないが、ボトムアップも求められていることを忘れてはならない。クラブライフを通して、より活性化させ魅力あるステージを構築するのも全てリーダーの能力であります。毎年度、三役のなり手が不在というクラブが目立つが、これもリーダーとして自分を訓練する機会を放棄していることを強く実説する。勇断を以って登壇するライオンに「あのライオンはやりたがり屋だから」と陰口を云う品性を疑うメンバーがいるが、こんな人格的に欠落した人はクラブメンバーとしての資質がないと断裁する。自分自身を鼓舞して追いつき追い越せるリーダーの誕生は一般社会でも必ずや高く認知されると思う。

昨年 3 月 11 日の東日本大震災には多くのクラブメンバーが助け合いの実践に昼夜を問わず汗した。被災地を巡回し見舞品を届けたり慰問や交流を実践したメンバーは被災地で多くの出会いと感動を実感し、人間としての貴い絆が結ばれた。これこそ奉仕の原点であり貴重な体験として終生の宝として生き続けることであろう。今、北国の人々は厳しい寒さの中で耐え忍び春のくることを一日千秋の想いで待っている。人々は心から春を待ち春きたならば春を讃え春に酔う。2012 年を迎えたわがクラブでも紆余曲折の中にも慚やく次世代を担う若きメンバーの道づけが急がれるが、確かな一歩が踏み出される日は遠くない。かつて大量消費社会の流れや資源の浪費などで目に余る乱れた時を越えて今や私達の先達がつくり上げてきた思いやりのある惻隱の思想が復活してきた。現世での生存は能うかぎり日々のくらしを簡朴にして心を風雅に遊ばせる心の豊かさを追う時代となった。人間として最も高尚な生き方とする文化の伝統が甦ったことを実感する。これぞ日本ライオンズの奉仕の原点と認識されメンバー全員で心豊かな日々を汗してゆきましょう。(仁 恕)

L 小西宗仁 '07~'08 年度 333-C 地区ガバナー 日本 LC 連絡事務所管理委員

